

# 「楽しき 哀しき 昭和の子ども」

2017年9月8日(金)～2019年3月31日(日)

昭和のくらし博物館 本館2階企画展示室／子供部屋にて

昭和という時代は、それまでになかった新しい子ども文化が  
沢山生まれた時代ですが、一方で戦争や病、貧困などにより、  
沢山の子どもが死んだ時代でもありました。その“明”と  
“暗”二つの側面にスポットを当てた企画展です。

## <展示概要>

昭和戦前から戦後20年代頃までは、戦災、戦争孤児や食糧危機  
による餓死、栄養状態や環境衛生の悪さと医療の未発達、保健福祉  
の不備による伝染病等の病気によって多くの子どもの命が失われま  
した。さらに貧困による、親子心中、捨て子、貰い子殺しなどの悲  
惨な事件も多発しました。

その一方で、戦争中を除けば、昭和時代は子どもたちにとって、  
明るく楽しい時代でもありました。戦前の都会では、チョコレート  
などのハイカラなお八つ、面白い絵本や紙芝居、洋服や靴、デパート  
の屋上遊園地やお子様ランチ、縁日の夜見世など楽しみがたくさん  
ありました。近所の子どもや、きょうだいも多く、家の中でも外  
でも、さまざまな遊びで日が暮れました。戦後はさらにテレビや漫  
画、ゲームなどと娯楽も広がり、子どもの世界も大きく変わり、都  
市と農村との差も少なくなりました。



## <見どころ>

第1室(企画展示室)では、昭和の子どもについて、その社会背景とともに  
「楽しき子ども」と「哀しき子ども」の世界を展示しています。また、当時の  
子どもたちが胸を躍らせた夜見世を再現したほか、昭和戦前戦後に子どもたち  
が楽しんだおもちゃや絵本の数々を部屋中にちりばめ、手に触れたり、子ども  
に返って楽しめる展示になっています。

第2室(子供部屋)では、“山口さんちの子ども部屋”として、高名な歴史学  
者である山口啓二さん、村田静子さん夫妻の家に残されていた戦前から昭和30  
年代の母子2代にわたるおもちゃを、当時の日記と共に紹介しています。

## <主な展示内容>

### ●楽しき子ども

きょうだいの考察／家族そろって楽しいお出かけ、デパートの屋上と食堂  
／心躍る縁日と夜店／街角では紙芝居／洋服を着て元気に／  
おやつ時間

### ●悲しき子ども

子どもが死んだ昭和／学童集団疎開という苛烈な体験／『綴方教室』『山  
びこ学校』『にあんちゃん』にみる働く子ども／人さらいとサーカス／  
身売りされる少女



## <山口さんちの子ども部屋>

企画展の隣の部屋は、第2室として“山口さんちの子ども部屋”という展示  
になっています。山口家の姉妹2人のメリーちゃんとマリーちゃんという2  
組のお人形セットをドールハウスに仕立てた棚を中心に可愛い子ども部屋に  
なりました。展示設計およびデザイン・製作は漫画家の高野文子さんが手  
がけています。創意工夫を凝らした細かい細工も見どころです。

## ◎当時開催：特別展「高野文子の描く 昭和のこども原画展」

会期：2017年10月6日(金)～12月24日(日)

会場：昭和のくらし博物館 新館2階特別展示室

